

## 受賞作品 (50音順)

01	川辺と道の窓をもつ家	[豊田市稲武町]
02	浄土宗 乗林院 庫裏	[知多郡東浦町大字緒川]
03	土間の屋根 棲家の床	[名古屋市北区西味鏡]
04	豊川の家	[豊川市東新町]
05	トヨタ紡織グローバル本社	[刈谷市豊田町]
06	リリモテラス公益施設	[長久手市勝入塚]
07	RESIDENCE FUJIMI	[名古屋市中区]
特別賞 08	「三河・佐久島アートプラン21」における一連のアート作品群 [西尾市一色町佐久島]	

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

### 選考基準

#### 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。(以下例示)

- 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

#### 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。(以下例示)

- 地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

#### 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

#### 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

### 選考経過

応募対象	愛知県内で、2016年4月1日から2021年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
応募期間	2021年7月1日から2021年8月20日まで
応募総数	65作品
第1回選考委員会	2021年8月25日 1次選考を行い、21作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	2021年10月20日 2次選考を行い、8作品を決定した (内1作品を特別賞に選定)
表彰式	2022年2月2日

### 選考委員 (順不同/敬称略/★は委員長)

谷田 真	名城大学 准教授
★太幡 英亮	名古屋大学大学院 准教授
夏目 欣昇	名古屋工業大学 准教授
船橋 仁奈	大同大学 准教授
溝口 周子	名古屋造形大学 教授
向口 武志	名古屋市立大学大学院 准教授
柳澤 謙次	公益社団法人愛知建築士会 会長
松岡 由紀夫	公益社団法人愛知県建築士事務所協会 会長
澤村 喜久夫	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
成田 清康	愛知県 建築局長
森 哲也	愛知県 都市・交通局長

**主催** 愛知県

**後援** 愛知市長会  
愛知県町村会  
愛知県商工会議所連合会  
中部経済同友会  
愛知県都市計画協会  
中部デザイン協会

**協賛** (公社)愛知建築士会  
(公社)愛知県建築士事務所協会  
(公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会  
(一社)愛知県建設業協会  
(一財)東海建築文化センター  
愛知県建築技術研究会

# 愛知 まちなみ 建築賞

第29回

AICHI  
MACHINAMI  
KENCHIKU  
SHO

## 表彰 作品集 2021

いいまちに、いいけんちく。

## 愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村秀章

| Hideaki Ohmura

「愛知まちなみ建築賞」は、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる「建築物」又は「まちなみ」を表彰することにより、「建築物」及び「まちなみ」のまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、もって魅力と潤いのある地域環境の形成に資することを目的として、1993年度に創設し、今年度で第29回を迎えました。

今回も多くの皆様から応募をいただきました。建築、都市計画、デザインの専門家、行政で構成する選考委員会において厳正かつ公平な審査を行い、65作品の中から、愛知まちなみ建築賞として8作品を表彰することとし、内1作品を特別賞としました。

今回の受賞作品は、「名古屋の都心において、通りを歩く人達の目も楽しませてくれる開放的なテラスを設けた共同住宅」、「ものづくり産業の中心地において、まちと一体感あふれる開放的な杜（もり）」と、その奥に本社ビルを造った自動車関連工場、「三河の山間地において、旧宿場町の古い空家を開

放感のある外観へ改修して、人々が集い地域の再興の拠点となる住宅兼工房」、「三河湾の島しょにあって、様々なアート作品によって、島全体の新しい風景を作りだしているまちなみ」など、県内各地の地域環境に調和しながら、新しい景観を生み出している個性豊かなものです。

受賞した8作品は、その地域の方々が愛し自慢する存在に成長されることは勿論のこと、同じような環境の地域にとっても、魅力ある景観づくりの好事例として大いに貢献されることを期待しています。

さて、最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、深く感謝申し上げます。これからも、魅力的な景観の形成を促進し、愛着と誇りが持てる豊かな県土の形成と、魅力ある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 総評

まちなみとは、空間的・時間的な広がりを持つ概念である。即ち、視覚的にある地点から一望できる様な建築景観とは限らず、また、単一の建築プロジェクトの様にある時点で完結したものとも限らない。

単に「まちなみ」でも「建築」でもなく「まちなみ建築」を冠した本賞では当初からその評価軸が議論されてきた。しかし、これまでの受賞作品は結果的には、ある地点から一望できる、ある時点で完結した建築またはまちなみに与えられてきた。実際の建築行為は社会的にも時・空間的にも制約の中で行われるし、過去5年間の完成という応募条件が付されることで、応募作品も必然的に時・空間を限定したものに限られてきた。

今年のまちなみ建築賞は、この点での評価軸を問い直す重要な機会となった。具体的には、「三河・佐久島アートプラン21」を対象とした議論である。

改めて、本賞の4つの選考基準を確認すると、評価の対象に緑化やせせらぎの空間創造から、開放ギャラリーまで含む、とても視野の広い開かれた基準となっている。佐久島の各所の自然、緑や水や風や波音と一体となって、この土地の持つ多様な魅力に気づかせてくれるアートプロジェクトの多くは、土地から切り離して存在し得ない建築的な作品であり、集落を含む島全体は開かれたギャラリーでもある。これまで20年にわたり、また今後も続いてほしい継続的な蓄積は優れた「まちづくり」であり、「まちなみ」を周囲の自然環境を含めた総体として捉えることを促す、現代的な意味を持つものであったと考えている。審査委員会での議論を経て最終的には、審査員の総意をもって「特別賞」を設置し、授与するという結論に至った。

今年は他にも、自然との関わり方を積極的に提案したものが評価された。駐車場跡地を開かれた広い緑地に転換してグローバル企

業としての覚悟を示した「トヨタ紡織グローバル本社」、単純な平面が積層された高層マンションが並ぶ都心部に立体的な緑のオープンスペースを組み込んだ「RESIDENCE FUJIMI」、洪水による浸水域が広がる濃尾平野において3mの想定浸水高さにもう一つの小さな地盤をつかった「土間の屋根 棲家の床」などである。また、減築によって坂道からの視軸を創造し町との関わりを再生した「浄土宗 乗林院 庫裏」、寄棟の伝統的建築構成を反転させて、住宅が隣接する地域で縁側を意味のあるデザインとして再創造した「豊川の家」なども含め、いずれも広域での環境条件を背景に、既存の地域環境にも丁寧に向き合い、さらに、新たな建築の形式を提示するような力強い「まちなみ建築」作品であった。

最後に一次審査からの経緯を報告する。例年と同程度の計65点の応募作品から、書類審査を通じて選ばれた21作品について動画を中心とした二次審査を行い、実物を確認した委員の意見も踏まえて議論を行い8点の受賞（内1点が特別賞）を決定した。冒頭で記した通り、評価のスタンスが問われ、しかし議論を通じてその間口を拡張できた今年のまちなみ建築賞を経て、第30回を迎える来年は、さらに充実した応募作品が集まることを期待したい。



名古屋大学大学院 准教授

太幡英亮

| Eisuke Tabata

### 受賞作品 (50音順)

- 01 川辺と道の窓をもつ家 [豊田市稲武町]
- 02 浄土宗 乗林院 庫裏 [知多郡東浦町大字緒川]
- 03 土間の屋根 棲家の床 [名古屋市区西味鏡]
- 04 豊川の家 [豊川市東新町]
- 05 トヨタ紡織グローバル本社 [刈谷市豊田町]
- 06 リリモテラス公益施設 [長久手市勝入塚]
- 07 RESIDENCE FUJIMI [名古屋市中区]
- 特別賞 08 「三河・佐久島アートプラン21」における一連のアート作品群 [西尾市一色町佐久島]



練り込み技法による記念銘板

作/陶芸家 水野教雄

# 川辺と道の窓をもつ家

豊田市稲武町

かわべとみちのまどをもついえ



建築主 一般財団法人古橋会  
 設計者 TUNA Architects  
 施工者 誠和建設株式会社  
 first-hand

概要 主要用途 住宅  
 構造 木造  
 階数 地上3階  
 敷地面積 325.50㎡  
 建築面積 81.00㎡  
 延床面積 231.50㎡

稲武町は江戸時代から明治時代にかけて中馬街道の中継地として栄え、今も風情のある古いまちなみが残されている。築100年をこえる木造3階建てで、かつては商店だった空き家を、住居・ゲストハウス・家具工房にリノベーションした作品である。

敷地は名倉川に架かる旧稲武大橋のたもとにあり、家屋は道路と高低差のある川辺の地盤に建つ。正面入り口は2階のレベルにあり、通りからは2階建てに見える。屋根は切妻平入、軒先は通りに沿って建ち並ぶ家屋の軒に揃う。正面を引き違いサッシとし、往時と同様に通りに開いたファサードはまちなみに調和し、地域の特色ある景観を伝えている。

西妻面では川辺に面して大きなサッシを設け、川辺の銀杏の木や鉄骨アーチ橋の美しい風景を建物に取り込んでいる。南側の通りに面する窓に加え、西妻側にも窓を設けたことで、木橋跡の石積み、人馬改め所跡などを往時の目線で見ることができる。

リノベーションはこの建物が持つ歴史と向きあうことであると同時に、この地域の過去の風土・文化を今に繋げてくれる。この施設が地域に住まう人とこの地を訪れる人を結び、地域文化の継承に繋がる拠点の一つとなることを期待したい。

●澤村 喜久夫 Kikuo Sawamura



1,2,3 photo/TUNA Architects(1/2021 2,3/2020)

# 浄土宗 乗林院 庫裏

知多郡東浦町大字緒川

じょうどしゅう じょうりんいん くり



築300年を超える庫裏の改修プロジェクトであり、審査において、単なる一建物の改修に留まらず、地域景観に好ましい影響を与えている点が高く評価された。

伝統的な庫裏は大型民家の系譜にあり、内部に土間のある広間を支える骨太の柱梁をもち、外観は大きな妻面を正面として建つ象徴性の高い建築である。堅牢だからだろうか、民家より古い時代の建物が各地に残されているが、僧侶の生活空間として使われている建物であるため、文化財として保存されるものは少ない。

本建築はこうした庫裏を改修して使いつづける取り組みであり、改修に際して妻面の前にあった後補の建物を除去し、かつての姿に近い形に戻した。それは東浦の「おじょう坂」の景色を思い起こさせるものであり、一つの建物の再生を通じて「地域の原風景」を現代的に再生したとして評価することができる。

景観保全という観点からみると、優れた設計例ほど、建物は地域に馴染み、突出することはない。欧州の諸都市では見慣れた設計手法であるが、日本ではそうした設計例は数少ない。修景を意識した建築がより評価されることを期待したい。

●向口 武志 Takeshi Mukaiguchi

建築主 宗教法人 乗林院  
 設計者 株式会社 万木和広建築設計  
 施工者 東浦土建株式会社

概要 主要用途 寺院(庫裏)  
 構造 木造  
 階数 地上1階  
 敷地面積 1,090.88㎡  
 建築面積 98.73㎡  
 延床面積 98.73㎡



1,2,3 photo/渡辺亮太 建物写真店(2020)

# 01

# 02

# 土間の屋根 棲家の床

どまのやね すみかのゆか

名古屋市北区西味鉦



建築主 種村 剛英  
 設計者 ウタグチシホ建築アトリエ  
 施工者 株式会社ARK工房  
 概要 主要用途 専用住宅  
 構造 木造一部鉄筋コンクリート造  
 階数 地上3階  
 敷地面積 202.97㎡  
 建築面積 118.49㎡  
 延床面積 187.45㎡

洪水災害の影響を強く受けるエリアに計画された新築住宅である。防災という観点から、敷地の見えない特性を浮き彫りにし、それを一つの住まいのかたちとして昇華させている。本計画は、「個人がまちなみに対して、いかに寄与できるのか」という問いたてをするとともに、まちの一部であることをしごく自然に印象付けているのである。

審査を通じて、改めて住宅建築がまちなみ形成に果たす役割について考えた。特に個人住宅においては、それをまちなみとしてどのように位置づけ、評価すべきなのかが論点となる。河川氾濫危険区域である当該工

リアにおいて、現代版高床式住居というべき佇まいは、まさにエリアの地域性を体現する建築であると言える。防災的観点から生まれたこの住まいのかたちは、近隣住民に防災意識を芽生えさせるとともに、新たなランドスケープをつくり、そして人々の多様なアクティビティの受け皿にもなる。水と共に生きる人々の生活に寄り添い、水害への対策と現代的な住まい方を丁寧に統合したこと、そしてまちなみ形成における周辺地域への展開性をも示唆していることなどが高く評価された。

●船橋 仁奈 Nina Funahashi



1,2,3 photo/YASUKO OKAMURA [株式会社VA] (2018)

# 豊川の家

とよかわのいえ

豊川市東新町



まちなみと住宅のあり方は密接に関連している。街区や街路のパターンに影響を受けた住宅形式の反復がまちの風景を作り出す。この住宅は、豊川稲荷の近傍、以前は商店が建ち並び賑わいを見せていたという通りを一方に含む東西二面に接道し、両側を2階建ての建物に挟まれた土地に建つ。そんな環境から導かれた2枚の大屋根を持つ住宅の佇まいに高い評価が集まった。

2枚の大屋根は、寄棟屋根を二分割し、その断面側を隣家の壁側へ反転させ、対峙させることにより形づくられている。この操作により、まちとの連続感や深い軒下空間、敷地中

央に路地の様な中庭が生み出されている。内部空間では、生活の場をシンプルに配置しながらも、リビングを覆う大屋根の船底部分を軒下空間にまで視覚的に連続させることで、暮らしの一部をまちへとにじませるとともに、プライベート空間との境界となる中庭を、くさびが打たれる様に街路へと開くことで、周辺の路上園芸と緩やかに繋がっている。

このように、大屋根の操作から生まれた空間構成と、そこから派生する豊かな暮らしの場は、新たな住宅形式をつくり出しており、良好なまちなみをつくっていくためのヒントになると言えよう。

●谷田 真 Makoto Tanida

建築主 藤原 大和・藤原 温子  
 設計者 class archi 株式会社  
 施工者 株式会社荒川工務店  
 概要 主要用途 専用住宅  
 構造 木造  
 階数 地上1階  
 敷地面積 232.20㎡  
 建築面積 128.50㎡  
 延床面積 124.99㎡



1,2,3 photo/田中克昌 [KATSU TANAKA Photography] (2021)

# 03

# 04

# トヨタ紡織グローバル本社

刈谷市豊田町

とよたぼうしよくぐろーばるほんしゃ



photo/株式会社ナカサンドパートナーズ(2020)

建築主 トヨタ紡織株式会社  
 設計者 株式会社 竹中工務店  
 施工者 株式会社 竹中工務店  
 概要 主要用途 事務所  
 構造 鉄骨造  
 階数 地上6階  
 敷地面積 103,598.42㎡  
 建築面積 3,527.89㎡  
 延床面積 13,119.16㎡

約100年間かけて、いわゆる工場景観が形作られてきたエリア。従来のモノのための「閉じた場」から人に向けた「開いた場」へと転換を図り、時流を先んずるランドスケープの構築を見事に実現した事例である。この地へのこだわり、豊田綱領の精神がにじみ出している。大浜街道と市役所前の通りとが結節する正面口には杜を設えており、まちなみを敷地の中にまで取り込んでいる。その奥にはかつての工場棟を思い出させるれんが壁・のこぎり屋根の低層部があり、そして、企業のアイデンティティを表象する平織状に編まれたスクリーンを纏う主屋が背後に控える。重

層的で奥行きのある風景を創りだすことで、単調になりがちな街と工場地との関係を脱却している点が魅力的である。また、創業時から在る建物を前面に移設し歴史展示館として開放、展示スペースには自社技術を応用した天井膜を設置、創造性を育むウェルネスオフィスの提供、など内外空間全体からこの場が担う伝統と未来が感じられる。街の中心部に対して、企業市民として積極的に関わる姿勢は、これからの「まちなみ」をリードするものであり、その取組が共有されることで評価は更に高まるだろう。

●夏目 欣昇 Yoshinori Natsume

05



photo/中谷太郎[サイファー](2021)



photo/株式会社エスエス(2020)

# リリモテラス公益施設

長久手市勝入塚

リにもてらすこうえきしせつ



1

住民の平均年齢が日本一若いまちとして知られる長久手市を横断するリリモの長久手古戦場駅の駅前に建てられた本建築は、長久手の玄関口として「新たなつながりをデザインする場」というコンセプトから生まれた。

本建築は、南北に通る「大廊下」と様々な個性を持った「小さな部屋」が連なった形状が特徴的であり、屋根の形状を模した開口部からは中の様子が伺え、地域に開かれ、ふらっと立ち寄りやすく親しみの持てるデザインとなっており、建物全体はまちの玄関であるかのような外観となっている。

また、建物内に入ると、壁面と天井を覆う三角形の木組みに目を奪われる。天井が高く解放的な大廊下部分では、コンサートやワークショップ、地元大学生によるギャラリー等の様々な催しが行われている。これらの活動が共存し、時に重なり、時に連鎖し、隣接する部屋とともに、更なるつながりを生み出している。

このリリモテラスでの様々な活動がつながり、深化し、この玄関口から長久手のまちなかへと展開していくことが期待される。

●森 哲也 Tetsuya Mori

建築主 長久手市  
 設計者 株式会社 東畑建築事務所  
 +株式会社 ナノメートルアーキテクチャー  
 一級建築士事務所  
 施工者 株式会社 服部工務店  
 概要 主要用途 事務所・一部店舗  
 構造 木造  
 階数 地上1階  
 敷地面積 870.08㎡  
 建築面積 399.14㎡  
 延床面積 383.40㎡

06



1,2,3 photo/谷川ヒロシ[トロロスタジオ](2021)



3



敷地は名古屋市中心部の高層集合住宅が密集するエリアである。無機質なベランダを有する従来型高層マンションのまちなみの中で、立体的な白いグリッドフレームに緑が映える。一般に単身寮という機能は若い独身者が多いと想定され、そのような集団は画一的な区画では隣人同士が疎遠となり街からも孤立しがちである。このRESIDENCE FUJIMIでは、光と風の通るテラス空間をコミュニケーションの場として寮生同士が繋がるよう意図されており、そこで発生するアクティビティがグリッドフレームを越えて緑と共に街にしみだし、街と繋がってゆくことを期待し評価した。

外部に面するテラス空間の配置は採光や通風のシミュレーションによって決められており、居室との関係性も重視される。またその計算された上でのランダムな配置の大開口はグリッドフレームのスリムな架構に動きと開放性を与え、地域の画一的なまちなみに潤いを与えている。さらに夜間のライトアップによって印象的な光が溢れ出しており、周辺環境へも良い影響を与えていくことを期待している。

●溝口 周子 Shuko Mizoguchi

建築主 日本医療リース株式会社  
 設計者 株式会社 竹中工務店  
 施工者 株式会社 竹中工務店  
 概要 主要用途 共同住宅  
 構造 鉄筋コンクリート造  
 階数 地上9階  
 敷地面積 653.30㎡  
 建築面積 292.25㎡  
 延床面積 1,600.30㎡



1,2,3 photo/株式会社ナカサアンドパートナーズ(2021)

特別賞

## 「三河・佐久島アートプラン21」における一連のアート作品群

「みかわ・さくしまあーとぶらん21」におけるいちれんのあーとさくひんぐん



「イーストハウス」南川 祐輝

三河湾国立公園内にある離島佐久島、篠島、日間賀島。篠島・日間賀島はそれぞれ漁業や観光で成り立っているが、佐久島だけは少し雰囲気が違う。その中で佐久島の再生を期して発生した行動がこの作品群と考える。

島に訪れて散策してみると、今まで高齢者中心による漁業の島、人口250人程度の過疎の佐久島全体が、テーマパーク島になっている。島を訪れる人は自然が残る狭い山道を自転車や徒歩で、すれ違う時に声を掛け合って島中を巡る。そして作品群のスタンプラリーを楽しみ、その作品と共に多くの人が列を作

り、写真を撮って帰って行く。またこの観光客を目当てに、行政も古民家を利用して展示・イベント用施設をつくり、いろいろな店が本土から出店しつつある。

これらのことをまとめてみると、この作品群が島に溶け込み、佐久島を魅力と潤いある空間の創造に変えようとしていると評価する。

今後「三河・佐久島アートプラン21」における一連のアート作品群」として、島民・行政・民間を巻き込んださらなる進化が期待される。

●柳澤 講次 Koji Yanagisawa

建築主 西尾市  
 企画 有限会社オフィスマッチングモウル  
 概要 主要用途 アート作品  
 構造 -  
 階数 -  
 敷地面積 -  
 建築面積 -  
 延床面積 -

07

08



1,2,3 photo/尾崎芳弘(1/2018 2/2015 3/2013)